

令和3年度第3回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

開催日時	令和4年2月28日（月）午後2時から午後3時30分まで
参加者	委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長（司会）、高齢者福祉課長補佐兼地域支援係長、担当主事2名
方法	Teamsによるweb会議
内容	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の確認 ・ 欠席者の確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 令和3年度生活支援コーディネーター活動報告</p> <p>【資料1～3】「活動計画」を基に生活支援コーディネーターから説明。 〈説明内容〉</p> <p>①瀬戸市全域（第1層）：フレイル、認知症予防のための「習い事」（運動・体操・スポーツ）を紹介する瀬戸市資源マップの作成や瀬戸市移動支援事業のネットワークづくりに取り組んだ。また、近隣スーパーでの周年祭にて地域活動及び認知症の啓発を行った。多くの人の目に留まる場所でパネル展示等を用いて実施したことで、地域活動や認知症について考えるきっかけになったと思う。</p> <p>②ふたば（第2層）：効範連区を中心に、スーパー等での65歳以上を対象とした割引や特典などを調査し、リスト化した。ふたば圏域は元々集まりが多い地域だが、コロナの影響や、担い手の高齢化により、活動できていない。12月頃から、地域のサロンに訪問調査し、今後の運営について悩んでいる団体があることを聞き取った。今後、サロン運営者同士が集まり、課題を共有できる場づくりを検討する。また、運送業者が健康体操や太極拳等の高齢者向けの取り組みを行っており、自治会に周知したいという声掛けがあったため、調整を行った。今後も地域団体と企業等とのつなぎを行っていく。</p> <p>③しなの（第2層）：コロナの影響で地域の活動が中止になっており、地域の活動再開に向けて、実施者の意欲低下にならないために、地域の支え合いの必要性を啓発していく。また、瀬戸市移動支援事業のアンケートで東明連区では人との関わりが減少していることが分かった。今後は、地域包括支援センター等各種関係団体と役割分担し、支え合い活動につなげていく。</p> <p>④中央東（第2層）：包括支援センター中央東が実施する地域サロンに参加した。最初は7、8名の参加だったが、口コミで広がり、2回目は倍以上の参加があった。来年度は毎月サロンを開催することを検討しており、音楽療法や歌体操を行っているボランティア団体と日程調整を行った。中央東地区には、神社や寺院が9か所ほどあるので、他の場所でもできないか検討する。</p>

〈質疑応答〉

[瀬戸旭医師会] から質問。

- ・ 運送会社等の協力企業はどのように把握しているのか。

[第2層生活支援コーディネーター] から回答。

- ・ 運送業者とは元々のつながりがあり、協力することとなった。他にも地域貢献したいと思っている企業はあると考えられるため、知っている情報があれば教えてほしい。

[瀬戸市シルバー人材センター] からの意見。

- ・ シルバー人材センターでは、会員それぞれの特技を生かして作った作品を玄関ホールで販売している。販売を始めてから、それまでは月に1回しかセンターに来なかった人が頻繁にきてくれるようになった。また、シルバー会員になる動機を調べたところ、70%ほどが孤独を防ぐためだということが分かった。外出が楽しくなるための動機付けには、人との関わりがあった方が効果的だと思う。

[第2層生活支援コーディネーター] からの意見。

- ・ 地域貢献のために各種団体がそれぞれの趣向を凝らした仕掛けをしているため、生活支援コーディネーターとして、マッチングしていきたい。

(2) 瀬戸市移動支援における地域ニーズの報告

【資料4・5】を基に事務局から説明。

道泉地区、東明地区それぞれのニーズ調査の方法と、その結果について報告。道泉地区では生活のための移動、東明地区では交流のための移動のニーズが高いことが分かった。

〈質疑応答〉

[委員長] からの質問。

- ・ 移動支援の参加者は集まっているのか。

[事務局] からの回答。

- ・ 先に実施する道泉地区については定員まで集まっている。東明地区については現在募集している。

(3) 外出機会を創出するために必要なツールについての検討

【資料6】について生活支援コーディネーターより説明。

集まりに参加するきっかけとして、参加費やプログラムの内容よりも、友人作りのためであったり、開催頻度が定期的であり、家から近いことがあげられる。集まりの周知方法としては知人の紹介、町内回覧板など地域に密着した周知方法が効果的であると分かった。

[委員長]

- ・ 外出機会の創出にはどんな仕掛けづくりが有効なのか、検討したい。

[瀬戸旭医師会]

- ・ 独居の高齢者は診察の際、普段話す機会が少なく、声がかすれていることがある。カラオケやデイサービスに行き、声を出すように促すも、理解してもらえないこともある。医療機関に地域の集まりのパンフレットを置くのも良いと思う。高齢者にとって集まりが必要であることを家族の方にも周知していくことで、若い世代も巻き込んでいけるとよい。

[委員長]

現状、医療機関にはそのようなパンフレットは置かれていないのか。

[瀬戸旭医師会]

認知症に関するものは置いているが、地域の集まりに関するものは置いていない。

[基幹型地域包括支援センター]

水野の地域ケア会議に出席した際に、男性は広報を見ただけでは集まりには参加しづらく、会って勧めることでようやく行く気になるという話があった。また、デイサービスに通っている人が元気になったとしても、卒業後に行く場所がないため、そのままデイサービスに行き続けてしまう。デイサービスを卒業した人が働ける場所があるとよいのではないかと。

[瀬戸市シルバー人材センター]

ふるさと納税の返礼品として、お墓の定期清掃などのサービスを提供している自治体がある。シルバー人材センターでは、返礼品として高齢者が行うサービスの提供を検討、提案していきたいと考えている。

[瀬戸市自治連合会]

居場所づくりとして、菱野団地内の商店街の中に、駄菓子屋や人が集まるための「だべりば」を設けた。ただ話をしに来る人も多い。現在は口コミで広がり、1回で40名ほどの参加がある。

[委員長]

男女でアプローチ方法を変えて取り組む必要がある。また、集まりに参加することにメリットがあるように、拠点づくり、外出機会の創出の動機付けしていくことが大切。来年度は今までの内容をうまくマッチングさせ、実現可能な具体的な案を考えていきたい。

3 その他

- ・ 事務局より来年度の会議と委員の任期更新について

〈説明内容〉

次の会議は6月ごろを予定している。委員の任期更新については所属団体に案内文を送らせていただく。

4 閉会